

長崎県美術館指定管理者候補者の選定結果について

1. 施設概要

- ・ 名 称：長崎県美術館
- ・ 所在地：長崎市出島町2番1号

2. 指定管理者候補者

- ・ 名 称：公益財団法人長崎ミュージアム振興財団
- ・ 代表者：理事長 村木 文郎
- ・ 所在地：長崎市出島町2番1号

3. 選定経過

(1) 募集期間

平成26年3月28日～6月20日(85日間)

(2) 応募団体(1者)

公益財団法人長崎ミュージアム振興財団

(3) 選定方法

指定管理者選定委員意見聴取(平成26年3月12日～18日)

- ・ 募集要領・審査基準の審議、決定
第1回指定管理者選定委員会(平成26年8月4日)
- ・ 応募者によるプレゼンテーション、質疑応答の実施
- ・ 採点、審査、候補者決定

(4) 選定委員(50音順)

区 分	氏 名	職 名
委員長	脇田 安大	公益財団法人ながさき地域政策研究所理事長
委 員	江副 功	長崎県美術協会 副会長
"	兼重 護	長崎大学名誉教授
"	古賀 大	株式会社日本設計執行役員建築設計群長
"	高橋 誠	九州観光推進機構事業本部長
"	林田 真知子	公認会計士
"	安永 幸一	福岡アジア美術館顧問

(5) 選定結果(335点×6名=2,010点満点)

公益財団法人長崎ミュージアム振興財団 1,606点

審査基準及び採点結果については、別紙1「審査基準及び採点結果」のとおり

委員7名中6名の出席あり

(6) 選定理由

- ・入館者数は、他の公的美術館に比べ格段に多い実績をあげてきた。今後についても、40万人前後を見込むなど、意欲的な運営を目指しており、高く評価できる。
- ・常設展、企画展は、スペイン美術を核に内容を高めるとともに、地元作家の調査研究に基づいた展示を行うなど、幅広くかつ深い企画を実施している。また、県内の芸術家との連携を重視し、学生への教育にも注力しており、県内の美術力向上に配慮が伺える。
- ・長崎県の今後の交通インフラ整備や国際交流活発化が展望される中、従来以上に長崎県の魅力を高める活動にも期待したい。

(7) 議事要旨

別紙2「選定委員会議事要旨」のとおり

(8) 事業計画書

公益財団法人長崎ミュージアム振興財団事業計画書

(長崎県企画振興部文化観光物産局文化振興課において閲覧できます。)

4. 今後のスケジュール

(1) 平成26年9月定例県議会に議案提出

(2) 議決後、指定管理者として知事が指定

(3) 指定管理期間

平成27年4月1日～平成33年3月31日(6年間)

5. 問い合わせ先

〒850-8570 長崎市江戸町2-13

長崎県企画振興部文化観光物産局 文化振興課 文化施設振興班

TEL:095-895-2762 FAX:095-829-2336

Email: s36510@pref.nagasaki.lg.jp

(別紙1)

審査基準及び採点結果(施設名:長崎県美術館)

事業計画書項目	審査項目	審査基準	配点	満点 × 6	(公財)長崎ミュージアム振興財団
1 美術館の管理運営方針に関する事項			15	90	80
1	申請を行う理由及び目的について	設置理念に即したものであるか	5	30	26
1	長崎県美術館の基本方針及び使命を実現する方策について	基本理念及び基本的な性格を理解し、かつ具体性があるか	10	60	54
2 中期計画に関する事項			25	150	127
2(1)	県と緊密な協力・連携の方法について	県が示す業務の範囲を実施できるか	5	30	25
2(2)	マネジメントが発揮される、効率的で開かれた管理運営システムの構築について	具体性があるか	5	30	23
2(3)	利用しやすい親しみの持てる美術館運営について	具体性があるか	5	30	29
2(4)	年間総入館者数38万人以上の目標実現への取組について	具体性があるか	10	60	50
3 事業項目及びその内容に関する事項			125	750	600
3(1)	管理運営基準への対応について、新しい取組、PR点について	県が示した基準を基準どおり行えるか、かつ具体性があり、新しい取組みにも言及しているか	5	30	22
3(2)	美術館施設・付属設備等の維持管理及び修繕に関する業務について	県の業務仕様を実現できる体制が示されているか	15	90	63
3(3)-1	美術資料の収集・保管・修復及び利用に関する業務への取組について	県が示す業務の範囲を適切に行え、かつ具体性があるか	10	60	54
3(3)-2	コレクション展(常設展)業務について	県の業務基準を満たし、長崎の美術や文化をアピールするものになっているか、また、計画的な展示スケジュールになっているか	15	90	72
3(3)-3	企画展業務について	県の業務基準を満たし、かつ実現可能であるか	15	90	81
3(4)	美術に関する調査及び研究に関する業務について	県の業務基準を満たし、かつ具体性があるか	10	60	54
3(5)	生涯学習支援に関する業務について	県の業務基準を満たし、かつ具体性があるか	10	60	54
3(6)	美術情報の提供に関する業務について	県の業務基準を満たし、かつ具体性があるか	5	30	21
3(7)	広報・マーケティング業務について	効果的な広報・マーケティング活動となっているか	5	30	24
3(8)	他の美術館・博物館との連携を図る業務について	具体的かつ効果的な計画となっているか	5	30	24
3(9)	利用許可、利用料金に関する業務について	具体的かつ適切な利用料金設定であるか	5	30	21
3(10)-1	ミュージアムショップ運営業務について	県の業務基準を満たし、かつ具体性があるか	5	30	22
3(10)-2	カフェ運営業務について	県の業務基準を満たし、かつ具体性があるか	5	30	18
3(11)	地域づくりと観光振興に資する業務について	現状を十分に認識し具体的な提案となっているか	5	30	24
3(12)	評価システム・モニタリングシステムの構築・運用について	現状を十分に認識し具体的な提案となっているか	5	30	23
3(13)	その他設置目的や美術館の使命を達成するために必要となる業務について	現状を十分に認識し具体的な提案となっているか	5	30	23
4 組織及び人員に関する事項			50	300	229
4(1)	コンプライアンスの徹底について	具体的な方策が示されているか	10	60	42
4(2)	明確な責任体制の構築等	これまでの提案を実施できる職種及び人員が適切に配置されているか。責任体制と指揮命令系統が明確かどうか	10	60	46
4(3)(4)	職種と人数について、人員に対する考え方	要件を満たし、これまでの提案を実施できる十分な能力を有しているか	15	90	69
4(5)	適切な勤務体制の確保について	県の業務基準を満たす適切な体制になっているか	5	30	22
4(6)	人材育成の取組について	具体的な計画となっているか	5	30	24
4(7)	美術館ボランティア活動について	具体的な計画となっているか	5	30	26
4-2	引継業務について	県の業務基準を満たし、かつ具体性があるか			
5 収支計画に関する事項			60	360	270
5(1)	収支計画の妥当性について	これまでの提案を実施でき、かつ実現可能な計画になっているか。妥当な負担金額か	30	180	138
5(2)	収入の確保と経費の縮減の方策について	具体的かつ適切で実現可能な内容になっているか	30	180	132
団体の概要			60	360	300
1	団体の概要について	これまでの提案を十分に実現できる規模及び財務状況であるか	30	180	138
2	美術館等の管理運営実績について	同様な類似施設の管理運営実績を持ち、長崎県美術館においてそのノウハウを活かすことができるか	30	180	162
合計			335	2,010	1,606

(別紙2)

長崎県美術館指定管理者選定委員会 議事要旨

1. 委員会の開催状況

- ・意見聴取 平成26年3月12日(水)～18日(火)
- ・第1回 平成26年8月4日(月)13:30～16:30

2. 審議内容

【意見聴取】

(1) 募集要領の審査

- ・募集要領案について個別審査及び事務局への意見が行われた。

(2) 審査基準の審査

- ・審査基準について個別審査及び事務局への意見が行われた。

【第1回】

(1) 委員会の成立

- ・事務局より、出席委員数が過半数(7名中6名)に達しており、本委員会が成立していることを報告した。

(2) 委員長の選任

- ・委員の互選により、委員長が選任された。

(3) 応募状況の説明

- ・事務局より、1団体からの応募があったことを報告し、審査方法等について説明した。

(4) 応募者に対するヒアリング

応募者からのプレゼンテーション

質疑応答(主な質問は以下のとおり)

- ・今後のどのように新しいステージを切り開いていくのか
- ・駐車場の無料化などで負担が増える部分をどのように補填するのか
- ・カフェやショップの客層を広げるための方策は
- ・今後も新聞社等とタイアップした動員力の高い企画展を計画しているのか
- ・今後、機械設備が寿命を迎える中で県との調整状況は
- ・企画展の収支予測の根拠について

(5) 採点、審議

採点結果

別紙1のとおり

指定管理候補者の選定と選定理由

【候補者】

公益財団法人長崎ミュージアム振興財団

【選定理由】

- ・入館者数は、他の公的美術館に比べ格段に多い実績をあげてきた。今後についても、40万人前後を見込むなど、意欲的な運営を目指しており、高く評価できる。
- ・常設展、企画展は、スペイン美術を核に内容を高めるとともに、地元作家の調査研究に基づいた展示を行うなど、幅広くかつ深い企画を実施している。また、県内の芸術家との連携を重視し、学生への教育にも注力しており、県内の美術力向上に配慮が伺える。
- ・長崎県の今後の交通インフラ整備や国際交流活発化が展望される中、従来以上に長崎県の魅力を高める活動にも期待したい。

【意見】

- ・年間40万人近くの入館者実績は高く評価できる。
- ・財政基盤が弱く、収益部門の安定化が求められる。
- ・ショップ、カフェの収支改善が課題であり、さらなる経営努力が必要。